

平成24年度

事業計画書

自 平成24年4月 1日

至 平成25年3月31日



誓願

人よ醒めよ醒めて愛に帰れ  
愛なき人生は暗黒なり

共に祈りつつ

すべての人と親しめ

わが住む郷に

一人の争う者もなきまでに

人よ起てよ起ちて汗に帰れ

汗なき社会は墮落なり

共に誇りつつ

すべての人と働け

わが住む里に

一人の怠る者もなきまでに

# 平成24年度 基本方針

## “幸せの種まき運動”でつなぐ心の絆

平成23年3月11日に発生した大地震と大津波は2万もの人命を奪い、多くの建物を壊滅させたばかりでなく、安全と言われていた原子力発電所をも破壊し、放射能汚染という大きな二次災害をもたらしました。

この大震災によって戦後最大とも言える大きな人的、物的被害が発生しましたが、一方で日本人の心に大きな変化が生まれ、日本人が忘れかけていた“助け合いの心”が多くの人々によみがえり、被災された人や地域に対して自分のできる事を何かしていこうという“心の絆”が結ばれました。

私ども修養団では、震災発生後速やかに支援金募集に取り組み、会員はじめ多くの方々から貴重な浄財をお預かりし、その浄財を活用して「炊き出しボランティア」「被災地の子どもたちをキャンプに無料招待」「石巻にボランティアハウス設置」「電気敷毛布の贈呈」など出来る限りの支援活動を展開いたしました。

これはまさに“愛と汗の心”に基づいた“幸せの種まき運動”の実践活動と言えます。被災地の復興はまだまだ手つかずのような状態で、原子力発電所の事故による避難はいつ解除されるのか皆目見当のつかないのが現状です。そんな状況の今だからこそ“愛と汗”の実践が求められていると言えます。

そこで、修養団では平成24年度の事業基本方針を「“幸せの種まき運動”でつなぐ心の絆」といたしました。昨年度にもまして被災者の方々に対しての支援を行っていくと共に、日本中さらには世界中の人々の心が“こんにちは！どうぞ！ありがとう！”の“幸せの種まきの絆”で結ばれるように努力していく所存です。

大災害に遭遇して、幸せをもたらすものは物ではなく、心だという事を多くの方が思い知りました。今こそ、一人でも多くの方が“こんにちは！どうぞ！ありがとう！”の「幸せの種」をまいていくことこそが幸せへの道だと気付いてくれる事を、そして一つでも多くの心の絆が結ばれる事を願い、“幸せの種まき運動”を推進して参ります。

“幸せの種まき運動”が一人でも多くの人々に広がり、一つでも多くの“心の絆”が結ばれるように全国の同志と手を携えて力一杯努力してまいります。

**I. 青少年活動****※子どもゆめ基金は申請中です。**

日本の未来を担い将来を築く青少年が、健康な身体を養い豊かな感性と高い徳性を磨き、有為な青年に成長することを目的に、基本理念である“愛と汗”の精神に基づいた、自然体験・社会奉仕体験を中心とした青少年育成活動の充実を図る。特に東日本大震災被災者に対する支援活動を愛と汗の実践活動として積極的に展開する。

**1. 子ども自然体験活動**

“愛と汗”の精神に基づいた子ども自然体験キャンプを全国的に開催し、大自然の中で障がい児を含む異年齢の仲間とともに野営による共同生活やさまざまな自然体験活動をとおして、心のバリアフリー化を図り、自主性、協調性、感受性等を育てるなど、次代を担う青少年の心豊かな人間形成を図る。

**(1) 夏期子ども自然体験キャンプ**

東日本大震災被災者の子どもたちを招待し、関東地区や開催地の子どもたちの参加を募り、自然体験活動をとおして、相互理解を深め、苦しみを分かち合い、真の絆を結び、友情を培うなど、助け合い、分かち合って生きることの喜びを体験する機会として実施する。

**ア. 東日本大震災被災者招待/子ども自然体験交流事業**

《文部科学省後援/子どもゆめ基金助成活動》

- 期 日 福島会場：8月1日（水）～5日（日）  
沖縄会場：8月8日（水）～12日（日） <各4泊5日>  
\*沖縄会場への関東地区からの参加者は前日集合、翌日解散
- 開催地 福島会場：福島県桧原湖畔（ぼんだいふれあいぴあ）  
沖縄会場：沖縄県渡嘉敷村（国立青少年交流の家）
- スタッフ等 各会場スタッフ10名、リーダー20名
- 対 象 小学1年生～中学3年生の児童生徒
- 募集人員 各65名（被災者招待20名、開催地30名、関東地区15名）  
\*障害児も例年どおり招待する

**イ. SYD主催「子ども自然体験キャンプ」**

- 期 日 7月下旬～8月 <各3泊4日>
- 開催地 4会場
- スタッフ等 各会場スタッフ10名、リーダー20～25名
- 対 象 小学1年生～中学3年生の児童生徒
- 募集人員 各50名～70名

**ウ. 連合会等「子ども自然体験キャンプ」**

- 期 日 7月下旬～8月 <各3泊4日～4泊5日>
- 開催地 7会場（美幌・房総・岐阜・広島・山口・北部九州・鹿児島）
- スタッフ等 各会場スタッフ8～10名、リーダー20～30名
- 対 象 小学1年生～中学3年生の児童生徒
- 募集人員 各50名～120名

## エ. 企画委員会の開催《子どもゆめ基金助成活動》

開催数 1回  
会場 SYD会議室  
企画委員 5名（学識経験者及び役職員）

## オ. キャンプ事前調査

期 日 6月～7月 <各2泊3日>  
開催地 全国6会場  
派遣講師 各1名

## カ. 印刷物の作成《子どもゆめ基金助成活動》

- ①子ども自然体験キャンプリーフレットの作成  
部 数 10,000部  
体 裁 A2版、4色刷り
- ②子ども自然体験キャンプ報告書の作成  
部 数 1,500部  
体 裁 A4版、107頁

## (2) 冬期子ども自然体験キャンプ

### ア. 冬期子ども自然体験（スキー）キャンプ

開催数 2回（12月、3月） <各4泊5日>  
会場 ばんだいふれあいぴあ、裏磐梯スキー場  
スタッフ等 各スキー指導員2名、SYD指導者3名（事務担当者含）  
対 象 小学1年生～中学3年生  
募集人員 各キャンパー40名、リーダー20名

### イ. 冬期自然体験リーダーキャンプ

開催数 1回（25年1月） <2泊3日>  
会場 ばんだいふれあいぴあ、裏磐梯スキー場  
スタッフ等 SYD指導者5名  
対 象 将来SYD指導者を目指すキャンプリーダー等の青年  
募集人員 20名

## (3) 夏期少年少女合宿講習会（青年会議所との共催事業）

開催数 2回（7月～8月）  
会場 伊勢青少年研修センター  
対 象 小学生  
定 員 各100名  
予定団体 (社)伊勢青年会議所、(社)岸和田青年会議所

#### (4) 40kmナイトウォークの集い

開催数 1回(9月)  
会場 伊勢青少年研修センター他  
対象 小学3年生以上の子供・一般  
定員 100名  
内容 40kmの夜間歩行

## 2. 子どもボランティア活動推進事業

### (1) 東日本大震災被災者支援/青少年炊き出しボランティア実践隊

《文部科学省後援/子どもゆめ基金助成活動》

中学生・高校生が中心となって被災者の暮らす仮設住宅を訪問し、食事を提供する活動を実施することにより、ボランティア活動の真の喜びを肌で感じ、青少年の豊かな感性を磨き、相互理解を深め、苦しみを分かち合い、社会の一員であることを実感するなどの体験をとおして、思いやる心や豊かな人間性・社会性、自ら考えて行動できる力を育むことを目的に実施する。

期 日 通年 <各2泊3日>  
開催数 年8回(3連休や期間休みに実施)  
開催地 活動拠点：ばんだいふれあいぴあ  
活動先：震災仮設住宅(宮城県石巻市・名取市、福島県新地町等)  
対象 真に被災者のことを考え行動できる中学生・高校生  
リーダーは、大学生等の青年  
募集人員 各回共参加者(中学生～高校生)10名、リーダー(大学生等)5名

### (2) 幸せの種まきキャンペーン 《文部科学省後援》

地域、学校(生徒会・ボランティア部)、PTA等と連携を図り、これまで実践しているフィリピン等での支援活動を紹介するなど、ストリートチルドレンやスカベンジャーなど「貧困と共に生きる子どもたち」の現状を理解する機会を提供します。このことにより、ボランティア精神を涵養し、他者への思いやり、命の大切さ、親への感謝など、“青少年の豊かな心”を育むことを目的として全国的に開催する。

#### ア. 幸せの種まきキャンペーン「出前講座・課外授業」の実施

期 日 通年  
開催数 全国50～60会場  
実施組織 学校(生徒会、ボランティア部・JRC等のクラブ、学童保育等)、市町村教育委員会・公民館、PTA・子ども会など各種団体・グループ、連合会・クラブ  
派遣講師 各2～3名 ※フィリピンでのボランティア経験者(学生含)  
実施概要 (1)参加者 15名以上  
(2)プログラム 90分(標準) 他

#### イ. パンフレットの作成・配布

部 数 3,000部  
体裁 A4版、8頁、4色刷り  
配布先 3,000カ所

### (3) 子ども週末体験活動《文部科学省後援/子どもゆめ基金助成活動》

地域の歴史・文化や特産品（ふるさと料理や工芸・民芸品等）の専門家や社会活動を積極的に行っている方を講師に招き、ふるさとの歴史・文化や特産品について、実際に学んだり、作ったり、体験したりするワークショップを行い、地域の歴史・伝統文化への理解を深め、ふるさとへの絆を深めるための事業を行う。

#### ア. 絆を深めよう！子どものふるさと学V I V A

開催数 全国8～10会場  
期間 5月～平成25年3月（原則として1泊2日）  
スタッフ 各SYD指導者1名、開催地責任者1名  
リーダー 各8～10名（高校生大学生等の青年）  
募集人員 各30名～50名（小学校1年生～中学3年生）

#### イ. 子どものふるさと学V I V Aリーダー研修会

開催数 全国8～10会場  
期間 5月～平成25年3月（原則として1泊2日）  
対象 将来SYD指導者を目指す中学生及びキャンプリーダー等の青年  
募集人員 各15名程度

### 3. SYD指導者の養成

各種体験活動においてリーダーとして活動している、あるいは今後リーダーを目指す中学生・高校生・大学生等の青少年が一堂に会し、自然体験や社会奉仕体験などさまざまな実践活動を実践し、自ら活動の楽しみや喜びを体得するとともに、子どもたちを安全に導きながら体験活動を積極的に推進するための知識や技能を習得し、年間をとおして体験活動を展開するSYD指導者の養成に努める。

#### (1) 全国青少年ボランティアリーダー研究会／震災ボランティアと青少年たち

《文部科学省後援/子どもゆめ基金助成活動》

東日本大震災での被災者に対して、支援ボランティア活動を実践している、または実践しようとしている中学生・高校生を中心とした青少年が一堂に会し、災害ボランティア活動の意義と心構えや福祉ボランティアの基本的技術を学習し、情報交換を行い、避難生活を余議なくされている仮設住宅での炊き出しや福祉施設でのボランティアを実践する。

期 日 第1回：7月26日（木）～31日（火）  
第2回：平成25年3月31日（日）～4月5日（金） <各5泊6日>  
会 場 ばんだいふれあいぴあ、喜多方市及び被災地  
(宮城県石巻市・名取市、福島県新地町\*予定)

スタッフ等 SYD指導者等5名  
対 象 将来SYD指導者を目指す中学生及びキャンプリーダー等の青年  
募集人員 各25名

## (2) 全国青少年フォーラム～震災からの学びと支援活動～

《文部科学省後援/子どもゆめ基金助成活動》

未だかつてない大災害をもたらした東日本大震災。多くの青少年が支援品を集め、街頭募金を行い、震災ボランティア活動に参加するなど、被災地の復興と被災者への支援活動を行ってきています。青少年たちはどのような役割を果たし、何を学んできたのか……。震災ボランティアを通じての若者たちの成長と学び、その支援の在り方や今後の取り組みについて考え、次代を担う若者たちの絆やネットワークづくりを推進することを目的に開催する。

期 日 第1回：10月6日（土）～8日（祝・月）  
第2回：平成25年2月9日（土）～11日（祝・月） <各2泊3日>  
会 場 国立または県立青少年自然の家・青少年交流の家等の公共施設  
スタッフ等 SYD指導者等5名  
対 象 将来SYD指導者を目指す中学生及びキャンプリーダー等の青年  
募集人員 各40名

## (3) 報告書の作成

部 数 1,000部  
体 裁 A4版、32頁

## (4) SYD指導者資格認定制度

自然体験活動や社会奉仕体験活動等を日常的に展開する指導者の養成を目指し、自然体験活動推進協議会(CONE)と連携した指導者資格証を発行するなど、SYD指導者資格認定制度の運用と充実を図る。

## 4. 青年組織育成

“愛と汗”の精神に基づいた、自然体験・社会奉仕体験を中心とした青少年育成活動の充実を図り、本部と各地青年部間の連携を密にし、情報交換を行い、青年部活動の活性化と連携を図るための協議を行う。また、SYDの理念を学ぶと共にさまざまな体験活動やその展開方法について学習し、年間を通して体験活動を展開する組織の育成、充実に努める。

### (1) 青年ボランティアゼミナール

開催数 年5回  
講師 各1名（国内外のボランティア実践・経験者等に委嘱）  
会場 SYD会議室  
対象 東京近郊の青年リーダー  
募集人員 各20名



## (2) 指導者の派遣と青年組織活動への助成

青年部組織の強化・拡大と活動の充実・活性化を図るため、指導者の派遣と組織活動への助成を行う。

### ア. 指導者の派遣

派遣回数 10～15回

派遣期間 2泊3日～4泊5日

### イ. 青年組織活動への助成

## 5. 第7回SYDボランティア奨励賞

都道府県教育委員会、主要市町村教育委員会、キャンプ開催地や参加者のいる小・中学校、高校、大学を中心にSYDボランティア奨励賞・パンフレットを配布、応募を呼びかける。顕著な活動を顕彰することにより、ボランティア活動に対する意識を高揚し、活動への参加を促して青少年の健全育成に寄与する。

### (1) SYDボランティア奨励賞(文部科学大臣賞)贈呈式

表彰式 平成25年2月11日(予定)

会場 SYDホール

### (2) SYDボランティア奨励賞・パンフレット配布

体裁 A4版、2頁、4色刷

部数 20,000部

配布先 20,000ヵ所

## 6. 関係機関・団体との協力

青少年教育及び社会教育の関係機関及び諸団体との連携を図り協力し合い、青少年の健全育成ならびに社会教育に寄与する活動を展開する。

## II. 国際交流

### 1. 青年ボランティア・アクション in フィリピン

フィリピンケソン市パヤタスのゴミ捨て場で働く子どもたち(スカベンジャー)やマニラ市のストリートチルドレン(路上で生活する子どもたち)を訪問し、ボランティア活動・交流活動・支援活動の実践をとおして友好と相互理解を促進する。以上のことにより、日本の青少年の国際的視野を広げ、国際協力の精神を涵養し、国際協力における実践力を培い、学校や地域で活動する青少年指導者を育成する。

期日 8月下旬 <6泊7日>

訪問地 マニラ市、ケソン市等

スタッフ 2名

参加者 25名(ボランティア活動に強い関心があり、ボランティア活動指導者を目指す中学生及び高校生以上の青年、満15歳以上から35歳位まで)

主な日程 マニラ市内のストリートチルドレンやパヤタスのスカベンジャー(ゴミ捨て場で働く子どもたち)とのふれあい活動やボランティア活動等

## 2. ブラジルとの指導者交流事業

### (1) ブラジルへの指導者派遣

ブラジル修養団の要請に応じて指導者を派遣し、日伯文化協会等と連携しながら開催される少年少女講習会や教育講演会及びブラジル修養団青年指導者研修会等に従事する。

期 日 平成25年1月～2月 <35日間>  
派遣者 SYD講師1名

### (2) ブラジル青少年指導者の招聘

ブラジル修養団の推薦する指導者及び青年リーダーを招聘し、伊勢講習会や子ども自然体験キャンプなどに参加・研修することにより、ブラジルで開催される少年少女講習会等で活躍する青少年指導者の養成を図る。

期 日 7月中旬～8月中旬 <26日間>  
招聘者 青年リーダー 1～2名

## 3. 関係機関・団体主催事業への派遣・受入協力

内閣府、国立青少年教育振興機構、(社)中央青少年団体連絡協議会等が実施する青少年や指導者を対象とした国際交流派遣事業に積極的に参加者の推薦を行うとともに、国内における各種国際交流活動への指導者・青少年の参加を促進する。

## 公益 2

## Ⅲ. 講習会・講演活動

企業・団体等の社員、または個人を対象に「良き企業人である前に、良き社会人であれ」をモットーに、「愛と汗」の精神を基本にした健全な価値観を形成し、より良い人格を研くことを目的に開催する。また、受託講習会・セミナーや講演会に講師を派遣し、“愛と汗”の精神の普及に努める。

### 1. 伊勢講習会（会場：伊勢青少年研修センター）

#### (1) みがく講習会

期 間 4月～平成25年3月 <各3泊4日>  
開催数 10回  
定 員 各50名

#### (2) みがく特別講習会

期 間 平成25年2月 <各1泊2日>  
開催数 3回  
定 員 各100名

#### (3) 特別講習会

##### ア. 神嘗祭講習会（定員：①+② 120名）

期 日 ①10月15日（月）～17日（水）<2泊3日>初穂曳き・神嘗祭コース  
②10月16日（火）～17日（水）<1泊2日>神嘗祭コース

## イ. 初詣・新春の集い

期 日 平成25年1月12日(土)～13日(日) <1泊2日>  
定 員 80名

## (4) 受託講習会

### ア. 3泊4日コース

開催数 1回(平成25年2月)  
定 員 80名  
予定企業=東芝テクニカルスクール

### イ. 1泊2日コース

開催数 9回(通年)  
定 員 20～100名  
予定団体=伊勢志摩リハビリテーション専門学校、伊勢の風を感じる会、高津ライフ・ケア専門学校、春風塾、神話を体感する会、豊田自動織機技能専門学園研修会、千葉・東京他倫理法人会研修、「教師のみそぎ」研修会

## (5) 講演活動

一般企業・青年会議所・PTA・その他各種団体の依頼により講師を派遣する。

## 2. 関東・東北地区講習会

### (1) 新入社員セミナー

学生から社会人への意識変革を図るとともに、“愛と汗”の人づくりを目的としたセミナー。

期 日 4月11日(水)～13日(金) <2泊3日>  
会 場 レークサイド磐光(福島県猪苗代町)  
定 員 40名

### (2) リフレッシュセミナー

中堅社員等を対象として、心身をリフレッシュさせ新たな活力を生むことを目的としたセミナー。

期 日 平成25年2月 <2泊3日>  
会 場 福島県下  
対 象 18歳以上  
定 員 40名

## 3. 受託セミナー

多様な企業の要望に応えるセミナーを企画し、企業が求める人材育成に貢献する。

実施回数 60回

### (1) ブラインド・ウォークセミナー

“思いやりの心” “信じ合う心” “感謝の心” の三つの心を体感し、より温もりのある心豊かな人間関係を保つことを目的としたセミナー。

コース：半日、1日

## (2) パート社員セミナー

スーパーマーケット等のパートタイム社員を対象に、職場の人間関係をより円滑にするための心のあり方や対人関係スキルの向上を目的としたセミナー。

コース：1日、1泊2日

## (3) 新入社員セミナー

学生から社会人への意識変革を図るとともに、“愛と汗”の人づくりをねらいとしたセミナー。

コース：半日、1日、1泊2日、2泊3日

## (4) 一般社員セミナー

一社単独による研修や職場リーダーの育成を目的としたセミナー。

コース：1日、1泊2日

## 4. 青少年・社会教育団体等への講師派遣・斡旋

委嘱講師の充実を図り、青少年団体をはじめ学校、諸団体、企業に積極的に働きかけ、講習会・家庭教育講座や人生講座への講師派遣や、レクリエーション、キャンプ等へのプログラムを企画立案し指導者派遣の一層の充実を図る。

# IV. 家庭教育活動

## 1. さわやか家庭《共育》セミナー

親や大人が子どもと共に育つ《共育》、さらに家庭・地域・学校が連携して共に青少年の健全育成に取り組む《共育》の理念と活動を普及させ、明るい家庭・社会の実現をめざす。会員組織を実施団体として、地元の幼稚園、保育園、小中学校PTAなど諸団体と連携し、会員はもとより広く参加を呼びかける。

開催数 10会場 〈各半日または1日〉

期間 通年

参加者 各30～100名

派遣者 各講師1～2名

## V. 会員組織活動

### 1. 「幸せの種まき運動」の推進

会員および会員組織と連携を図り、さらに諸団体に呼びかけて、下記事業を展開し、「幸せの種まき運動」を推進する。

#### (1) 愛汗実践塾

「愛と汗」を基本とした修養団の理念を学び、「幸せの種まき」を実践するための意識を高める機会として、会員組織を実施団体として開催する。

開催数 5会場 〈各1日〉  
参加者 各10～30名程度  
派遣者 各講師1～2名

#### (2) 第4回チャリティー「バザーと演芸会」

ーストリートチルドレン支援・東日本大震災被災者支援ー

開催日 6月16日(土)  
会場 SYDホールほか

#### (3) 第9回「平田康子チャリティーJAZZコンサート」ーストリートチルドレン支援ー

開催月 10月12日(金)  
会場 SYDホール

### 2. 会員組織活動への支援と会員加入促進

会員組織がそれぞれの地域や職域で行う社会貢献活動(幸せの種まき)を積極的にすすめるとともに、会員加入促進を図るため、新たに会員組織の役員等による会議を開催するほか、講師派遣などの支援を行う。

#### (1) 全国修養団運動推進会議【新規】

修養団事業の実施に向けて具体的な協議を行うとともに、各会員組織間の情報交換の場とする。

開催日 6月2日(土)  
会場 SYDホール  
参加者 主な連合会・クラブの代表者等40～50名

#### (2) 講師等の派遣

派遣数 30回程度(随時)

#### (3) 連合会等主催「皇居勤労奉仕」への支援

連合会等による皇居勤労奉仕の実施を支援し、要請によって職員を派遣する。  
実施数 3回 〈各4泊5日〉

#### (4) 『SYDかわらばん<最新活動情報>』の発行・配布

毎月20日(8月を除く)に各1,200部発行し、各会員組織等に配布する。あわせて、ホームページでも全記事を掲載して広報する。

#### (5) 諸団体との連携

社会教育団体振興協議会など諸団体との連携を図る。

## VI. 幸せの種まき献金活動

世界の経済的に恵まれない子どもたちへの支援や災害被災者支援の募金活動等を行う。

### 1. 募金活動

会員組織を通じて会員に募金を呼び掛けるとともに、諸事業参加者等にも広く協力を呼びかけ、積極的に募金活動を展開する。また、献金活動の促進・広報のための活動報告書などを作成し、配布する。

### 2. 支援活動

フィリピンをはじめとする海外のストリートチルドレンや貧困と共に生きる子ども達への支援活動を行う。また、東日本大震災被災者への支援を継続して行うなど国内外の災害被災者の支援ほか、福祉施設等への支援も必要に応じて行う。

## 公益 3

## VII. 出版・広報活動

### 1. 機関誌『向上』『愛』の発行

#### (1) 『向上』

「幸せの種まき運動」を推進する修養団の機関誌にふさわしい連載や随想を著名人や文筆家、会員、協力者にご執筆いただくとともに、修養団の事業や会員組織の活動を紹介して「愛と汗」の精神の普及に努める。

#### (2) 『愛』

子育てや、身近な青少年たちの理解と健全育成に役立ち、「幸せの種まき」を実践するための参考となる誌面作りに努める。

7月号、11月号、3月号は、ふれあい会員に向けた「ふれあい特集号」とする。

### 2. 平成25年版「日々の力」の制作・販売

「幸せの種まき」の意識を高める言葉と絵柄、デザインで制作し、従来の販売先に加え、新たな関係企業・個人および事業参加者へ働きかけ、販売の拡大を図る。

タイトル いのちのびのび

絵と文字 小野里 匡笑（絵手紙作家）

販売目標 19,000部（制作20,000部）

### 3. 教育図書の普及、教材の販売

『人生成功のバイブル』、『人生のことば365日』などの人生書や教育図書、研修教材等の販売に努める。

## 公益 4 ・ 収益 1

### VIII. 施設運営事業

#### 1. 伊勢青少年研修センター

##### (1) 施設運営

- ・ 講習会を事業の中心として運営する。
- ・ 施設の有効活用を図る。
- ・ 施設利用の団体に、愛と汗の精神に基づいた本団教育プログラムを取り入れていただくように働きかける。
- ・ 地域の各団体との連携を密にし、各事業を展開していく。

##### (2) 出版広報活動

- ・ ホームページ等を充実させ、センターの事業及び講習会の情報発信・広報に努める。
- ・ 『向上』『愛』誌を通じて活動の報告、広報活動に努める。
- ・ 各講習会、青少年育成事業などの発信に新聞等メディアの協力を仰ぐ。
- ・ センター各施設のパンフレットの作成を図る。

#### 2. 修養団SYDビル・SYDホール

- ・ セミナー、講演会や各種活動の拠点として一層の有効活用を図る。
- ・ 2階ホール及び16階会議室の利用を促進する。
- ・ テナントに対し、快適なオフィス環境を提供するよう適正管理に努める。

#### 3. ばんだいふれあいぴあ

- ・ 自然体験活動の拠点として有効活用に努める。
- ・ 施設の整備を行い、利用者拡大を図る。

#### 4. 関西会館

- ・ テナントスペースの利用者の募集を行い、施設の有効活用、適正管理に努める。

## その他

### IX. 表彰

#### 1. 平成24年度修養団年次功労者表彰

### X. 関係機関・団体、教育界との協力・連携活動

青少年教育及び社会教育の関係機関、諸団体並びに各地の教育委員会や学校、教師への積極的アプローチを推進し、連携を図り、協力し合って活動を展開する。